

資源に配慮したウナギ養殖技術の開発

(新成長戦略研究 新たなウナギ産業の創出)

(予算区分 新成長戦略研究 研究期間 平成 25～27 年度)

担当：水産技術研究所浜名湖分場 青島秀治 田中寿臣 上原陽平 水越麻仁

【研究の背景とねらい】

国際自然保護連合によるニホンウナギの絶滅危惧種指定(平成 26 年 6 月)以降、ウナギ類に対する資源保護への動きは一層加速しました。そこで、1尾のウナギでより多くの消費を生み出せるよう、ニホンウナギ以外の異種ウナギ、ニホンウナギともに出荷サイズ大型化の可能性を検討しました。

【研究成果】

- ・ 養殖に適した飼育水温がニホンウナギよりもやや低い約 26℃で、成長も良好なバイカラ種が養殖に適した種であることが明らかとなりました(ニホンウナギは水温 28～30℃が好適)。
- ・ 体重約 100 g のバイカラ種はおよそ 300 日の飼育で 500 g を超えるまでに成長し、大型ウナギとしての利用が可能であることが明らかとなりました。
- ・ 体重約 100 g のニホンウナギは、300 g を超えるまでは順調に成育し、通常の蒲焼サイズの 200～250 g を上回る大型化が可能であることが明らかとなりました。
- ・ 大型ウナギを周知させるため商品化した干物「沼津の大名うなぎ」は、高級スーパー等で販売されて、その評判は非常によく、大型ウナギ利用の先鞭となっています。



写真1 バイカラ種(上2尾)とニホンウナギ(下)
バイカラ種は、ニホンウナギよりも太くて短く、頭が大きいのが特徴

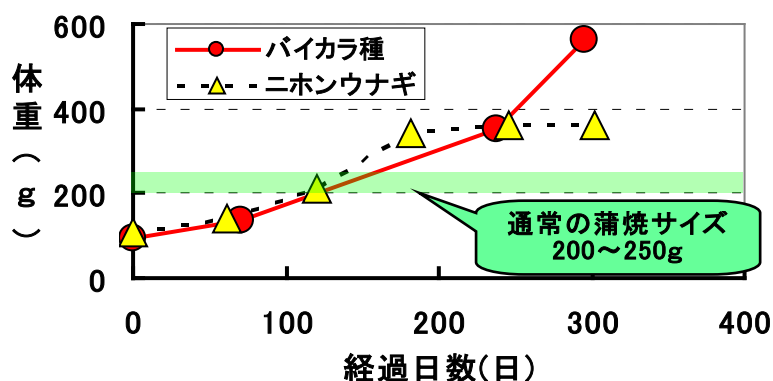


図 バイカラ種、ニホンウナギの体重の推移



写真2 干物商品「沼津の大名うなぎ」

【研究成果の普及方法】

- ・ 大型ニホンウナギについては蒲焼での利用を主眼に置き、養鰻漁協等と連携してレトルト商品の開発などを目指していきます。
- ・ 大型バイカラ種は蒲焼(和食)以外での利用により利用拡大を目指します。

(作成 平成 28 年 3 月)